

平成22年度 藤井寺改革・創造チーム

提 案 書

[高齢者がいきいきと暮らせるまちの実現に向けて]

平成22年10月

目次

はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

提案内容

1．誰もが集える場づくり・・・・・・・・・・ 2

2．生きがいづくりに関する情報提供・・・・・・・・ 3

3．高齢者向けの相談窓口の充実・・・・・・・・ 4

4．健康づくりの促進・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

5．その他

(1) 救急医療情報キット・・・・・・・・・・・・ 6

(2) 買い物宅配サービス・・・・・・・・・・・・ 7

おわりに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

(参考)

アンケート調査結果・・・・・・・・・・・・・・ 9

はじめに

今回、我々は藤井寺改革・創造チームとして、「高齢者がいきいきと暮らせるまち」をテーマに、その実現方策について検討を行いました。本書はその結果を提案書として取りまとめたものです。

今年度の藤井寺改革・創造チームは6人で構成され、それぞれの所属や立場にとらわれず自由な発想のもと、約5ヵ月間、18回に渡る会議を開催しました。

まず我々が検討したことは、何をテーマにするのかということです。まずはメンバーそれぞれが市長のマニフェストや市政運営方針等を再度確認し、それをもとにそれぞれが思い描いたまちのイメージを出し合い、検討を行いました。その結果、少しでも高齢化社会に寄与すべくという思いでメンバー全員が一致し「高齢者がいきいきと暮らせるまち」に決定したものです。

次に取り組んだことは、小規模ではありましたが高齢者の方々を対象としたアンケート調査の実施です。これは、我々が理想とするものではなく、高齢者が求めているものを提案にしたいとの考えのもと行ったものです。

このアンケート調査では、高齢者の日々の過ごし方や困りごとなどの現状に関することや行政サービスとして求めるものは何かなどについて伺いました。そして、協力いただいた方々の声を集約したところ、高齢者がいきいきと暮らしていくためには、以下の4点をより一層充実させていくことが重要であるという結果が出てきました。ただし、調査の関係上、主に日ごろから活発に活動されている方々に伺いましたので、今回の結果を全ての高齢者施策の基礎データとして取り扱うには課題は残ります。

誰もが集える場づくり

生きがいづくりに関する情報提供

高齢者向けの相談窓口の充実

健康づくりの促進

我々は、これらが高齢者が求めるものとして最大限に尊重し、それぞれに対応した提案を検討しました。具体的な内容については、次頁以降に掲載しています。

また、最後にアンケート調査結果とは関係なく、高齢者施策として別の2つの提案も検討しましたので、併せて本書に掲載します。

提案内容

それでは、これよりアンケート結果より導き出された4つのテーマに関し、それぞれに対応した提案を行っていきます。

1. 誰もが集える場づくり

現在、高齢者が集える場の代表的な施設として、老人福祉センター「松水苑」や地域の高齢者が身近に集える場所として、道明寺府営住宅集会所での「ふれあいリビングたてづか」や生涯学習センターでの「シュラホールふれあいカフェ」があります。中でも「松水苑」はアンケート結果において、高齢者が藤井寺に住んでよかった理由の一つにもあげられています。

そこで地域的にもこのような施設がない市域北西部に高齢者が集える新たな場の設置を提案します。

具体的には、市民総合会館本館や別館など既存施設の利用状況を精査し、高齢者が集える場としてふさわしい設備・機能を兼ね備えた場を提供することができないか、ということであります。高齢者が人との関わりの中で心身的に有意義な人生を送ることができれば、今後、高齢者の病気予防などにも繋がっていくのではないかと考えられます。

また、本市においては、平成22年度よりセカンドライフ課が設置され、人材バンクの設置が構想にあることから、これを活用した中で、ボランティア講師による趣味の教室などを誰もが集える場所として提供していくのも一つの方法ではないでしょうか。受講される方にとっては、新たな体験として人生の幅を広げることとなり、講師の方にとっては、同じ趣味の人を増やすことにも繋がると考えられます。

人との繋がりの輪が広がることにより、高齢者の孤独死問題に対する一つの解決策となることも期待できます。

2 . 生きがいづくりに関する情報提供

生きがいとは、昨年のチーム藤井寺21における提案書において「生きるに値するもの、生きていくはりあいや喜び」と定義され、その実現方策の一つとして、セカンドライフ課が設置されました。

現在では、セカンドライフ課において、生涯学習・スポーツ・健康・地域活動など、さまざまなライフスタイルに応じた情報提供資料として、「セカンドライフのために」という冊子が作成されたところであり、生きがいとして多様な趣味などを求めている高齢者の方々にとっては貴重な情報源になるものと考えております。

また、サービスの担い手として活躍したいの方々にとっては、そのような情報については、藤井寺市シルバー人材センターの活用に期待できるものと考えます。

以上のようなことから、今回は具体的な提案は行っておりません。

3. 高齢者向けの相談窓口の充実

高齢者向けの相談窓口の充実が求められているという結果は、めまぐるしく変化する現代社会への対応や将来における自分自身の生活として健康や介護のことなどに漠然とした不安を感じておられるからとも考えられます。

このようなことに対応し、介護保険に関することや健康・生活のこと、またどこに何を相談すればよいか分からないことなど、ちょっとしたことで身近で気軽に相談できる場があれば、高齢者の方々が抱えておられる不安も少しは解消していくのではないのでしょうか。

現在、藤井寺市地域包括支援センターにおいて、そこに配属されている保健師、社会福祉士、ケアマネジャーそれぞれが連携を図りながら保健、福祉、介護、日常生活の困りごとなどに関する相談を行っております。このような取り組みを活用することはできないか。

そこで、市と連携した形で実施する「特設高齢者なんでも相談窓口」事業の実施を提案します。

これは、どんな内容のものでも高齢者からの相談を受けるというものでありますが、基本的には、そこで解決を図っていくのではなく、前さばきの役割を担うことを想定しています。また、地域包括支援センターと連携することにより、あらゆる相談に対応することができるのではないのでしょうか。

実施形態として、初期の段階では、この窓口を常設するのではなく、特設としての定期的な開催で良く、また、市役所が遠くて出向くのがしんどいという方もおられるため、各公共施設を巡回していく形での実施が望ましいと考えます。ただし、高齢化社会を背景に、需要が拡大することも考慮し、将来的にはいつでも相談できる窓口として、市役所内への「高齢者なんでもコールセンター」の常設へと展開していくことも視野に入れながら検討してはどうかと考えます。

また、さらなる展開として、今回提案した相談窓口を市内の高齢者福祉施設や居宅介護支援事業者に業務委託し、身近に相談を受けることで、高齢者やその家族の心身の状況を把握し、介護予防・生活支援へと繋げていくというのも一つの方法ではないのでしょうか。

4 . 健康づくりの促進

健康づくりについて多くの関心がよせられているという結果は、高齢者の方々にとって、様々な活動を行っていく上で、健康が必要不可欠なものであると考えられているからではないでしょうか。

現在、生活習慣病の予防や健康寿命を伸ばすことを目的として策定された「健康ふじいでら21」に基づき、乳幼児から高齢者までの全市民の健康づくりを推進しているところであります。その中でも高齢者に対しての健康づくりとして、介護予防事業に取り組んでいます。

そこで、より多くの高齢者の方々の健康づくりの促進に向け、健康に関する年間事業一覧表などを策定・配布し、具体的な参加要件や実施時期の周知を改めて行うとともに、その一覧表を庁内や公共施設等に掲示し、誰でも内容を容易に知れるようにしてはどうかと思います。

また、需要があるものについては、現事業の対象者・実施場所・実施回数などを見直し、事業の拡充も検討してはどうかと考えます。さらには、新たな事業として、シルバー体育大会の開催や、シルバー体力測定会などを実施し、それぞれが目標を持てるようにすることで活動意欲を起すことも可能となります。また、そのような事業が新たな集える場となり高齢者の孤立・閉じこもり防止にもつながっていくのではないかと考えます。

5. その他

最後にアンケート調査の結果とは関係なく、その他の高齢者施策についても検討を行いました。その結果を以下に2件の提案としてまとめました。

(1) 救急医療情報キット

平成22年3月31日現在、藤井寺市における65歳以上の高齢者の割合は22.5%となり、平成18年3月31日現在と比較して3.2%、人数にして2,138人増加しています。

近年、加速する少子高齢化による高齢者の単身世帯や高齢者世帯の増加に伴い、高齢者の救急需要も拡大しています。平成21年中の救急出動件数(速報)や平成21年版消防白書(いずれも総務省消防庁)によりますと、平成20年中の救急出動回数は全国で約510万件に上り、平成10年からの10年間に約38%増加し、主な要因として高齢の傷病者の増加があげられています。

また昔は近所づきあいも多く、どこにひとり暮らしのお年寄りが住んでいるかなど地域の方は知っていましたが、今では近所づきあいが薄れ、百歳以上の高齢者の所在不明が多発し、個人情報保護の立場から行政でも個人情報をなかなか集められないという問題も発生しています。

もしひとり暮らしの高齢者や、家族が不在時に急病で倒れてしまった時、仮に救急車を呼ぶことはできても、その人の医療情報等が不明な場合が多く、医療現場における初期の処置の遅れは致命的なものと言えます。

このような現状を踏まえ、提案するのが「救急医療情報キット」の導入であります。

筒状の容器の中に本人を確認できる写真や健康保険証の写し、持病や服用薬、かかりつけの病院等の医療情報、緊急連絡先を記入したものを入れ冷蔵庫に保管、玄関には「救急医療情報キット」があることを示すステッカーを張る、また、同じ情報を携帯用として財布やかばんに入れ、外出用として備える、等すれば、万が一の事態には、本人情報を確実に救急隊員に伝えることができ、迅速かつ適切な救命措置が可能になると期待されます。

「救急医療情報キット」は全国的に広がりつつあり、近隣市においても導入に向け検討がなされております。

藤井寺市内においてもすでに一部地域で導入されておりますが、行政が主体となって消防・警察と連携することで、高齢者が安心して暮らせるまちづくりの一端を担うことができるのではないかと考えます。

(2) 買い物宅配サービス

2点目の提案は、「暮らしやすいまち」をテーマとして検討を行いました。

高齢になると体力的な衰えなどから、買い物などの日常の行動も大変になってくるものだと思います。アンケート調査でも日常生活での困りごととして、スーパーなどが近所になく買い物が不便であるとの回答も多数見られました。

このような現状を踏まえ、他市町村と比較し、藤井寺市が高齢者にとって少しでも暮らしやすいまちとなるためには、高齢者が苦慮していることを取り除いていくことも一つの方法ではないかという考えから、「買い物宅配サービス」の実施を提案するものです。

これは、高齢者の利便性だけではなく、市政運営方針にもあるような活気あるまちづくりを目的とするものであり、昔の酒屋さんが行っていたような個別の御用聞き（受注・配達）を商工会もしくは地元商店街と連携して実施するというものです。

こうしたことにより、商店街の活性化の一助にもつながっていくのではないのでしょうか。さらには、受注・配達時に高齢者の安否確認も期待できます。

また、精査は必要ですが、今後のさらなる展開の一つとして本事業を雇用促進策としても活用できるものと考えます。

特に、現在では障がい者を取り巻く環境も厳しく、雇用状況についても同様であり企業の求人数も多くないというような状況です。このような現状を踏まえ、新たな雇用の創出策として活用していくということです。

具体的には、商品の受注・配達作業を障がい者の方に担っていただくというものであり、こうした取り組みを通じて、より一層の障がい者の方の自立や地域での理解も深まっていくものと考えます。

おわりに

今回、このような機会を得て、メンバーそれぞれが真剣にまちづくりについて検討を行いました。市民が満足するまちといっても、人それぞれの価値観は様々です。それゆえに、一体何に重点を置いた提案をすべきなのか苦慮しましたが、我々としてはアンケート調査を行ったことで、少しでも高齢者の声が反映された提案を検討できたのではないかと考えています。どの提案も実施にあたっては、さらなる精査が必要となりますが、「高齢者がいきいきと暮らせるまち」の実現の一助になればと願っております。

(参考)

アンケート調査結果

調査の目的

高齢者がいきいきと暮らせるまちの実現に向けて、高齢者の置かれている現状と課題を把握し、より効果的な施策を探ることを目的として実施。

調査項目

- ・基本的属性
- ・高齢者が置かれている現状と課題について
- ・高齢者が求めているものについて

調査対象者

- (市内在住の60歳以上の方): 299人
- ・ふれあいリビングたてづか利用者(59人)
 - ・松水苑利用者(159人)
 - ・生きがい学級受講者(60人)
 - ・地域包括支援センター利用者(21人)

調査期間

平成22年7月12日(月)～23日(金)

調査方法

留置調査(調査票を被調査者に渡し、記入後に回収)

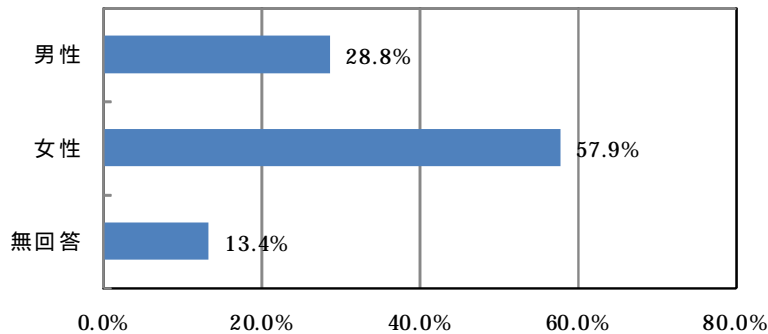
はじめに

今回のアンケート調査は、提案書の提出時期の関係から、短期間に数多くの標本数を集める必要があったために、高齢者の方々が集まる場所で行いました。そうしたことから、その対象者のほとんどが日ごろから外出し活動されている方々となっています。

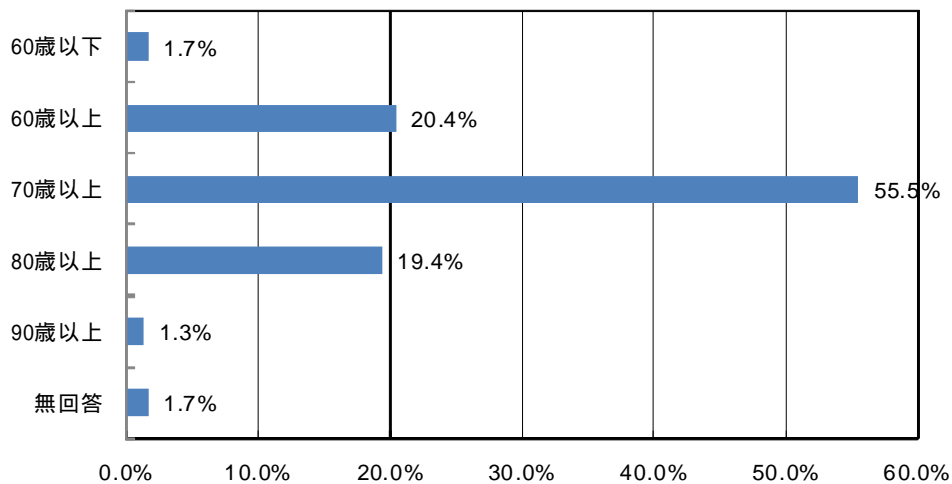
地域社会との関係が薄く、閉じこもりがちな方々の意見は聴取できていませんので、そのような方々への施策を検討する場合には今回の結果では課題は残ります。

年齢と性別

「男性」が28.8%、「女性」が57.9%でした。

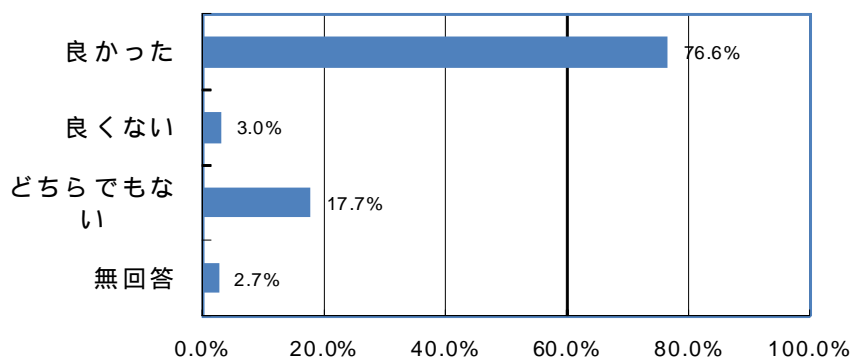


「70歳代」が55.5%と最も多く、最も地域社会との関係が濃い年代であるといえます。体力面で「70歳代」より優位の「60歳代」は20.4%でした。



自分たちのまちへの満足度について

藤井寺に住んで「良かった」と感じておられる方は76.6%で約8割を占めています。一方、「良くない」と感じておられる方は3.0%と非常に少ない状況です。



【住んで良かった理由】

- ・自然が多く、静かで環境が良いから
- ・駅やスーパー、公共施設等が近く、交通の便がよいから
- ・近所付き合いがあり、人がやさしくふれあいがある町だから など

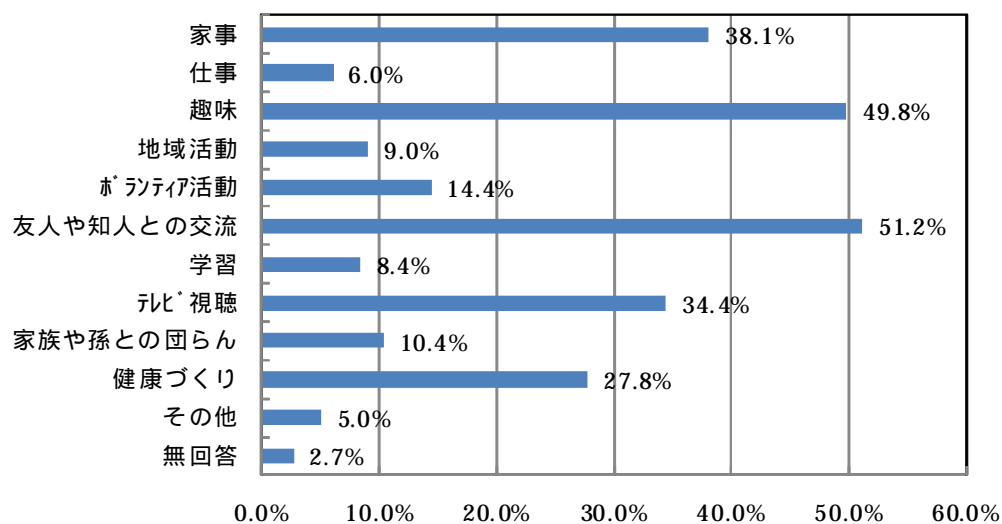
【住んで良くない理由】

- ・道路が狭いから
- ・特に駅周辺の通り抜けが困難だから など

*理由については、主なもののみ掲載しています。

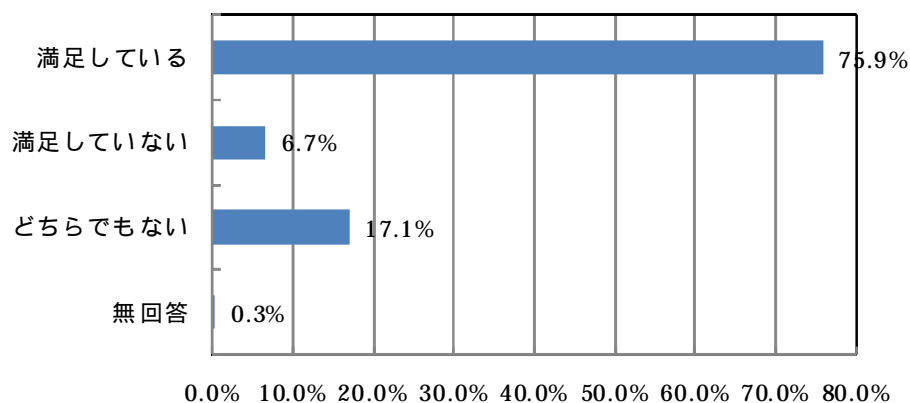
日ごろの暮らし方について

日ごろ、時間を費やすことが多いことについては、「友人や知人との交流」を選択した方が51.2%、「趣味」とされている方は49.8%とそれぞれ半数を占めています。



日ごろの生活の満足度について

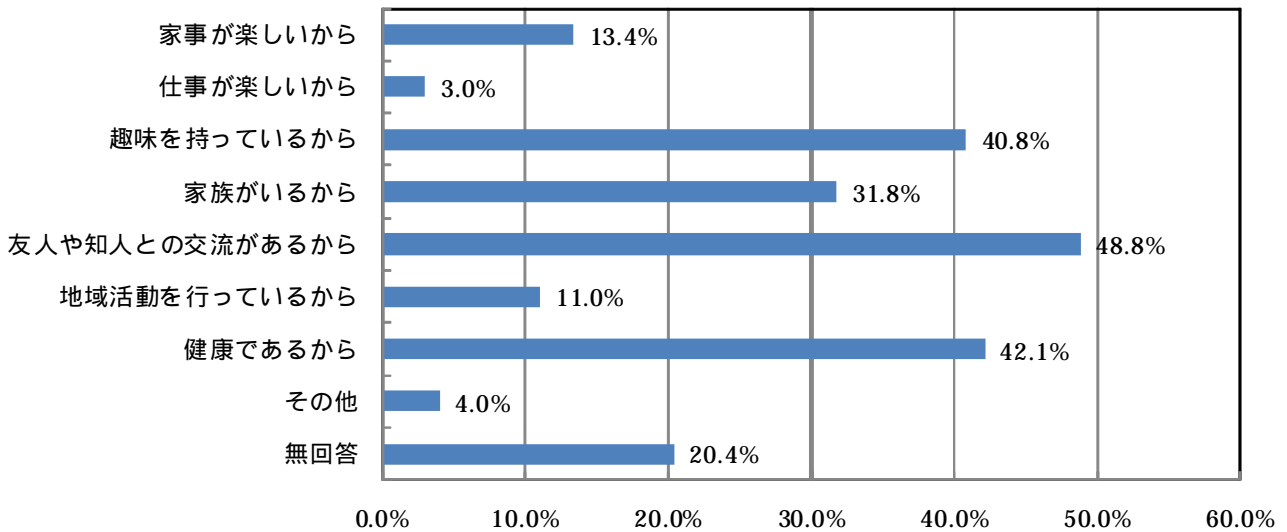
日ごろの生活について、「満足している」と感じている方は75.9%で約8割を占めています。一方、「満足していない」と感じておられる方は6.7%でした。



日ごろの生活に満足している理由について

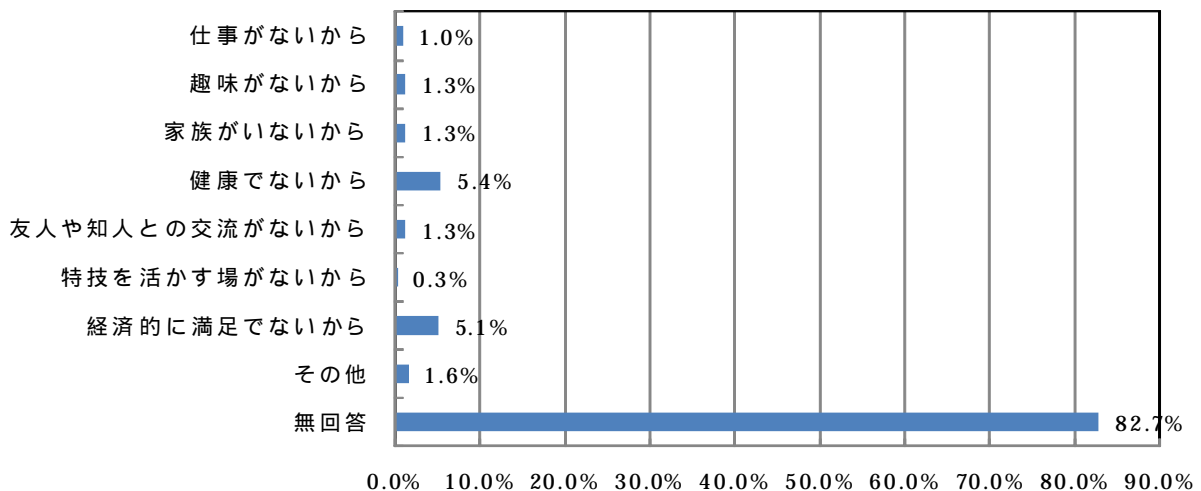
「友人や知人との交流があるから」を理由とされている方が48.8%で最も多く、次に「健康であるから」が42.1%、「趣味を持っているから」が40.8%と続いています。いきいきと生活していく上で、以上の3つは重要な役割を担っていると考えられます。

逆に、「仕事」や「地域活動」を満足している理由に選択された方は少ない状況です。



日ごろの生活について満足していない理由について

日ごろの生活について満足していない方は非常に少数ではありますが、その理由としては、「健康でないから」、「経済的に満足でないから」という回答が多く見られます。



日常生活での困りごとについて

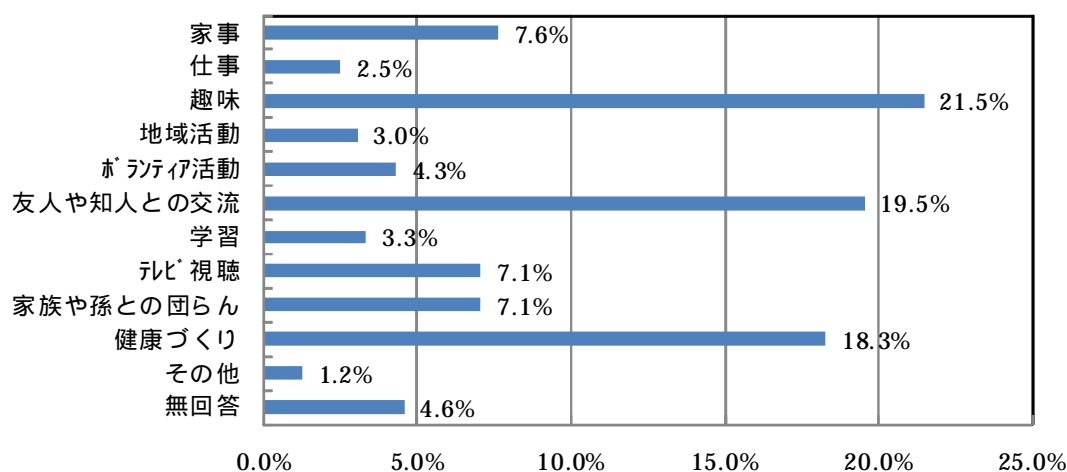
日常生活において今現在、一番何に困っているのかを記述式にてたずねました。以下に主なもののみを掲載しています。

- ・スーパーが近所になく買い物が不便
- ・体が悪く、階段の上り下りや外出が困難になってきている
- ・病気
- ・駅や公共施設等が遠く、交通の便が悪い
- ・話し相手がいない など

楽しい生活を送るために必要なことについて

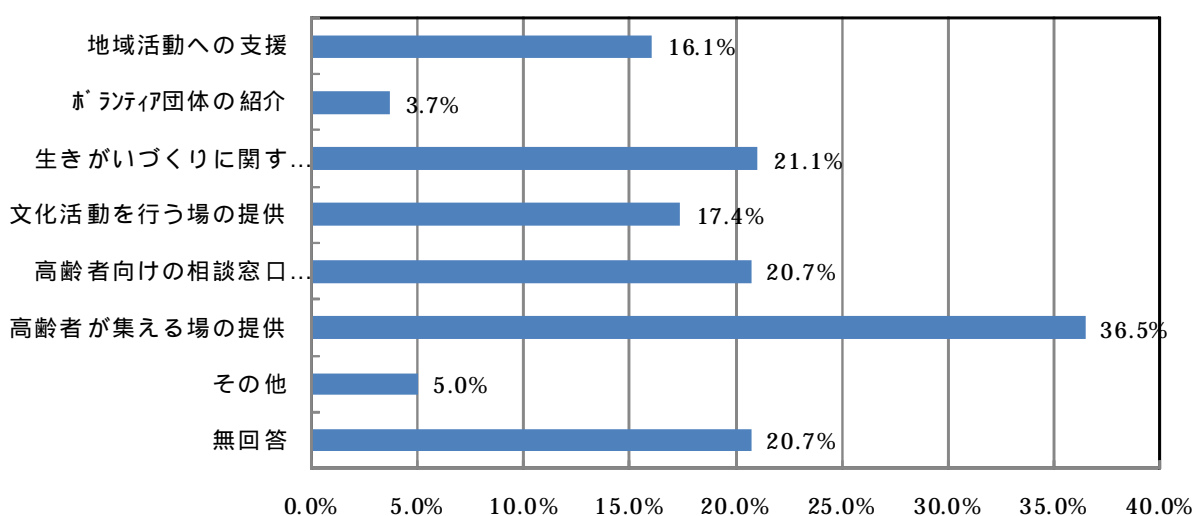
日ごろから楽しい生活を送るためには、「趣味」とされた方は21.5%、「友人や知人との交流」とされた方は19.5%、「健康づくり」とされた方は18.3%でした。日ごろの生活に満足している理由と全体的にはほぼ同様の結果です。

「仕事」や「地域活動」、「学習」を選択された方は少ない状況です。「友人や知人との交流」を求める方が多い一方で、地域活動への興味は少なく、地域間の関係が希薄化してきているとも伺えます。



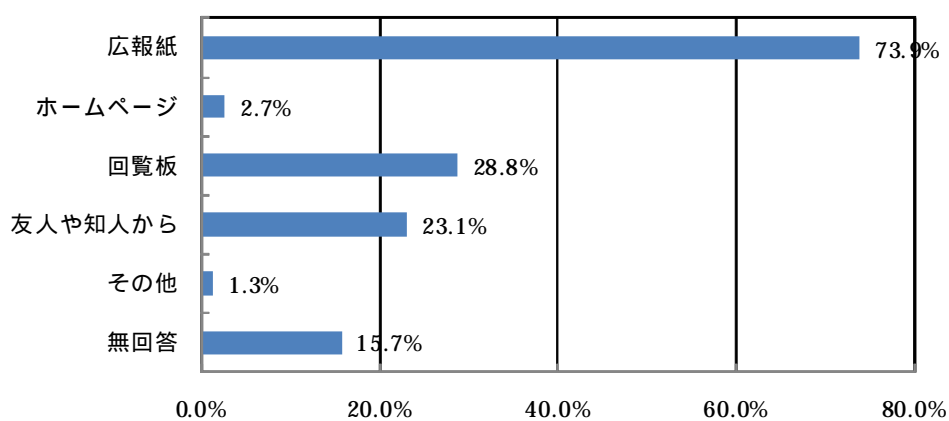
行政サービスとして求めるものについて

行政サービスとして求めるものとしては、「高齢者が集える場の提供」が36.5%と最も高く、次に「生きがいつくりに関する情報提供」が21.1%、その次に「高齢者向けの相談窓口の充実」で20.7%でした。逆に「ボランティア団体の紹介」が3.7%と最も低い状況です。



行政サービスに関する情報の入手方法について

「広報紙」を選択された方が73.9%で、次に「回覧板」が28.8%でした。



いきいきと暮らすための秘訣やご意見等について

いきいきと暮らすための秘訣やご意見、ご提案等について記述式にてたずねました。
以下に主なもののみを掲載しています。

- ・ 趣味や人と接する機会をもつこと
- ・ 健康管理を十分に行うこと
- ・ くよくよせずに前向きに生きること
- ・ 友人・知人を持つこと
- ・ 自ら外出をすること など

まとめ

求められるもの

これまでの結果からも分かるように、「友人や知人との交流」、「趣味」、「健康」、特にこの3つが人生をより充実させているものと伺えます。

行政サービスとして求められているものについても、「高齢者が集える場の提供」が最も多く、次に「生きがいつくりに関する情報提供」が選択されています。これは、人との交流や趣味がいきいきとした人生にとって大きな役割を担っていると同時に、多くの方々が今よりもより充実した人生を求めているということの表れではないでしょうか。

また、ほとんどの方が日ごろの生活に満足していると回答された中で、「高齢者向けの相談窓口の充実」が多く選択されているということは、将来や複雑多様化する社会への対応などに不安を感じておられる方々も多いとも伺えます。

同時に、健康への意識も非常に高いものとなっています。これは、人との交流や趣味など、さまざまな活動を行っていく上で必要不可欠なものであると考えられているからではないでしょうか。

今回のアンケート調査の回答者が日ごろから外出し活動されている方がほとんどであるため、この調査結果が全てに当てはまるわけではないですが、以下のことについて、より一層の充実を図っていくことが求められているものと考えます。

誰もが集える場づくり

生きがいつくりに関する情報提供

高齢者向けの相談窓口の充実

健康づくりの促進

今後の課題

一方では、「仕事」、「学習」、「地域活動」への興味は低いという結果が出ています。特に、地域活動に関しては、地域間の関係の希薄化が進んでいるとも考えられます。

現在、さまざまな取り組みを進めていく上で地域との連携は欠かせないものとなっており、地域の力に期待する部分は非常に大きいものと考えられます。そうしたことから、今後の課題として地域活動への支援も検討していくことが求められます。

以上

